

リハビリテーション部

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	0人
病院教授	1人
准教授	0人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	1人 (0人)
診療助教	1人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	1人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	0人 (0人)
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	0人
その他(技術補佐員等)	0人
合 計	4人

1-2 教員の異動状況

美津島 隆(病院教授)(H13.1.1~H15.10.31 助手、H15.11.1~H24.5.31 准教授、H26.6.1~現職)
永房鉄之 (助教)(H28.7.1~現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1)研究・開発等のテーマ名
	脳卒中患者のリハビリテーションへの経頭蓋磁気刺激の効果について
2	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	反復性経頭蓋刺激(repetitive transcranial magnetic stimulation:rTMS)は非侵襲的かつ安全にヒト大脳皮質神経細胞を刺激する方法であり、1Hz以下の低頻度rTMSは局所大脳神経活動を抑制し、5Hz - 20Hz程度の高頻度rTMSは局所神経活動を促進する作用を持ち、刺激方法の組み合わせにより様々な中枢神経疾患への応用が報告されている。脳卒中においては片麻痺患者の健側大脳皮質に低頻度刺激を与えたところ(コントロール群と比較して)麻痺側上肢機能の改善が報告されている。また患側大脳皮質に高頻度刺激を与え(コントロール群と比較して)麻痺側上肢機能の改善も報告されている。しかしながら持続時間は1週間と短い報告もあり治療効果としては十分ではないと考えられる。またリハビリテーションとrTMSを組み合わせることで治療効果の持続が得られる可能性が示唆されている。本研究の目的は脳卒中患者のリハビリテーションにおいて片麻痺の機能改善にrTMSが有効な治療となるかを検証することにある。
1	(1)研究・開発等のテーマ名
	頭頸部癌患者の放射線化学療法による嚥下機能の悪化と筋力の低下に対して、リハビリ介入での効果を検討する
2	(2)研究・開発等の背景、目的、内容の概略
	頭頸部癌患者に放射線治療をすることにより、粘膜炎、唾液分泌障害、味覚障害、嚥下障害などの合併症が高率に出現し、患者の30~50%に高度な体重減少(10%以上)が出現する。しかし、日本では未だに放射線治療中の頭頸部癌患者に明確な栄養サポートや嚥下障害に対する十分な対策がなされていない事が多くみられる。また、化学放射線療法は、約2ヶ月の期間施行され、活動レベルも低下し、筋力や体力も低下するが、運動面への対策も不十分である。そこで、我々は、頭頸部癌患者の放射線治療前・治療中・治療後に、栄養評価・嚥下評価・筋力評価・QOL 評価等を行い調査する。

3 論文, 症例報告, 著書等

	平成28年度
(1)原著論文数(うち和文のもの)	5編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	7.111
(2)論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3)総説数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000
(4)著書数(うち和文のもの)	1編 (1編)
(5)症例報告数(うち和文のもの)	0編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	0.000

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

	筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁 - 終頁, 掲載年.	IF
1.	Ryo Kondo, Y Yamato, T Nagafusa, T Mizushima, T Hasegawa, S Kobayashi, D Togawa, S Oe, K Kurosu, Y Matsuyama: Effect of corrective long spinal fusion to the ilium on physical function in patients with adult spinal deformity. Eur Spine J. 2017 Feb 11. doi: 10.1007/s00586-017-4987-9.	2.563
2.	高柳勇太, 吉倉孝則, 小山博史, 星野裕信, 松山幸弘: 人工股関節全置換術後10m歩行速度の改善群と非改善群における身体機能の特徴. Hip joint Vol 42-16 NO.2	0.000
3.	高橋 大生, 大城 昌平, 山崎 一史, 西田 裕介, 山内 克哉, 美津島 隆: 肺がん、大腸がんに対する運動介入効果 システマティックレビューによる検討. 理学療法科学 32 巻 1 号 Page21-27, 2017.	0.000
4.	橋本由里奈, 美津島隆: 高度の脊椎後側弯症により重度の呼吸機能障害をきたした症例に対する脊椎矯正固定術前の呼吸リハビリテーションの経験. 第38回国立大学リハビリテーション療法士学術大会誌	0.000

論文数(A)小計 4 うち和文 0 IF小計 2.563

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

論文数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1. Niitsu M, Ichinose D, Hirooka T, Mitsutomi K, Morimoto Y, Sarukawa J, Nishikino S, Yamauchi K, Yamazaki K. Effects of combination of whey protein intake and rehabilitation on muscle strength and daily movements in patients with hip fracture in the early postoperative period. Clin Nutr. Aug 35(4): 943-9 2016	4.548

論文数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 4.548

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

著者: タイトル, 出版社名, 巻, 初頁-終頁(頁数), 発行年.	IF
1. 蓮井 誠: いまさら訊けない! CKD患者栄養・運動療法の考え方、やりかたQ&A, 中外医学社, 89-94(6), 2016	

著書数(A)小計 1 うち和文 1

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

著書数(B)小計 0 うち和文 0

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

著書数(C)小計 0 うち和文 0

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	0 件

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0 件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	1 件	90 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	1 件	30 万円
(8) 奨学寄附金	8 件	384 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1. 安田千里(代表), 蓮井誠, 美津島隆(分担), 基盤研究(C), 頭頸部癌患者の放射線治療による嚥下と筋力の悪化をリハビリ介入で予防できるか, 平成27年度~平成29年度	90万円
---	------

(7) 受託研究または共同研究

1. (共同研究) 新規リハビリ機器に関する共同研究、共同開発, 平成28年度~平成29年度	30万円
---	------

6 大型プロジェクトの代表、総括

7 学会活動

	(1)国際学会	(2)国内学会
1)基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2)シンポジウム発表数	0 件	2 件
3)学会座長回数	0 件	1 件
4)学会開催回数	0 件	0 件
5)学会役員等回数	0 件	0 件
6)一般演題発表数	1 件	

(1)国際学会等開催・参加

6)一般発表

6-1)口頭発表

1. Daiki Takahashi, Yusuke Nishida, Takashi Mizushima: Features of the autonomic nervous function in patients with cancer cachexia. The first VietNam - Japan joint rehabilitation conference, 2016年8月, ベトナム

(2)国内学会の開催・参加

2)シンポジウム発表

1. 高柳勇太、関節鏡視下術後患者における骨盤可動性の関連因子、第12回日本股関節鏡研究会、浜松、2016年9月
2. 高橋大生、がんのリハビリテーションと身体活動、第87回理学療法科学学会、成田(国際医療福祉大学)、2017年3月

3)座長をした学会名

1. 永房鉄之、第39回日本リハビリテーション医学会中部・東海地方会、名古屋市、平成28年8月20日

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1)外国	(2)国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	0 件	0 件

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1)国際共同研究	0 件
(2)国内共同研究	1 件
(3)学内共同研究	2 件

(2)国内共同研究

1. 心臓の運動適応過程を評価する指標としての心臓-運動同調 (Cardiac-Locomotor Coupling) に伴う心拍変動成分の解析、国際医療福祉大学成田保健医療学部理学療法学科

(3)学内共同研究

1. 難治性神経障害性疼痛(脳外科)
2. 慢性腰痛(整形外科)

10 産学共同研究

	平成28年度
産学共同研究	1 件

1. 新規リハビリ機器に関する共同研究、共同開発 1件

11 受賞

12 新聞, 雑誌, インターネット等による報道

13 その他の業績